

平成 19 年 12 月 14 日

日本ヒトプロテオーム機構（JHUP0）理事会

議事録

日 時 平成 19 年 12 月 14 日（金） 15 時～17 時

会 場 横浜市立大学エクステンションセンター

出席者（敬称略順不同）

谷口 直之	中村 和行	高尾 敏文	礮辺 俊明	戸田 年総
荒木 令江	平野 久	西村 俊秀	小林 章一	高山 光男
吉里 勝利	山本 格			

事務局

藏満 保宏 土手塚淳史

議長委任（敬称略順不同）8名

曾根 純一	森川 實	中村 範夫	三嶋 弘	前田 忠計
真鍋 敬	根本 直	中西 洋志		

欠席者（敬称略順不同） 2名

谷口 壽章 大國 壽士

総理事数 22 名中、参加 12 名、委任状 8 名により理事会は成立した。

次のとおり議事進行が行われた。

報告事項

報告 1：日本ヒトプロテオーム機構第 5 回大会 報告

礮辺先生より第 5 回大会収支報告書にて報告があった

- ・ 当初の予想より参加者・協賛社が増え、予算に余裕ができた
- ・ 反省点：懇親会料理が少なく、当日の追加もほぼ不可能だった
- ・ 貸付金 50 万円は JHUP0 に返金した

理事により上記が承認された

協議事項

1. 常務理事の選出

事務局が大阪大学より山口大学へ変更となり、庶務担当理事が松本先生より藏満先生に変更となったことが承認された。

JHUP0 規約第 3 章第 10 条（4）に基づく、その他 1 名の理事選出につき協議

- ・ 谷口先生より日本質量分析学会の和田芳直先生（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）が推薦された。
- ・ 中村先生より第5回会大会長磯辺先生が推薦された。非常に重要な役割果たしていただいたので、磯辺先生に常務理事を担当していただいてはどうか。
理事により磯辺先生の理事選出が承認された。
- ・ 谷口先生より HGPI チェアが谷口先生から産総研の成松先生へ変更の報告があり、理事により承認された。
- ・ 中村先生より現大会長と次期大会長を理事としておくと引き継ぎがスムーズという意見が出た。

2. 予算と事業予定（別添1、2）

別添予算案に基づき平成19年度予算の説明

- ・ 従来は70万円を理事会開催経費に割いていたが、会費が潤沢でない為、可能な限り理事自己経費にて参加いただくことになった。会場費、庶務担当理事と株式会社コンベンションリンクージ参加費として20万円程度は計上。
- ・ WEB は NEC の上條先生が管理をしていたが、谷口先生が適当な担当者を選出。15万円以内で可能になった。当件は先の理事会で承認されているので、計上している。
- ・ H19 業務委託費は株式会社コンベンションリンクージ見積もりに基づき計上。
理事により予算案承認。

別添予算案に基づき平成20年度予算の説明

- ・ 当予算案は通常、来年の理事会で承認するものだが、ある項目が進んでいるので、まず提案というかたちで発表し、よろしければこの場で承認を希望すると中村会長より説明。
- ・ 全体的に平成19年並みの予算案になると考えられる。
- ・ 平成20年度予算書中、第6回大会→第7回に誤字訂正。
- ・ PRICPS AOHUPO の項目は後ほど説明。
- ・ PRICPS、AOHUPO 合同開催につき、会長のシン普森より日本の応援要請があった。
- ・ 日本蛋白質科学会は100万円拠出を決定。
- ・ JHUPO は若手（40歳未満でポスター発表予定者）の会員（もしくは、非会員の可能性もあり）の旅費を上限50万円でサポートする。
- ・ 予算をいかに確保するかを念頭におき、平成20年度予算案を承認していただきたいと中村先生より説明。

上記説明に関連して、以下のことが討議された。

- ・ 大会余剰金を翌年度活動費に計上することは可能であるか（生化学会では国際会議準備の備蓄金や、記念事業名目で備蓄を行っている）。
- ・ 大会登録参加者を1年間会員にする案。
- ・ 評議員世話人等から会費を集めるという方式はどうか。
- ・ 総会を行うかどうか。

以上の討議をうけ、中村先生より、常務理事会で専門部会づくり、メールにて理事に意見を伺い、可及的速やかに常務理事会にて解決案を作成すること提案があり、理事により上記提案が承認された。

JHUPO を学会化するかどうかが、会員管理につき各理事から意見が出されたが、これについては、行われた議論を踏まえ、常務理事会で検討されることになった。検討された提案は、各理事にメールで送信し、承認されることとなった。

以上で審議事項1・2が承認された。

3. 理事の辞退

中村先生より現理事の大國壽士先生（明確に脱退意思有り）、谷口壽章先生（連絡不可）を理事辞退ということでよいか、また庶務担当理事については、松本先生から、藏満先生に変更になったということを説明。2名の理事退任につき理事より承認された。

4. 理事推薦委員会

平野先生より以下の説明があった。

- ・ 推薦委員会が前回発足し、検討してきたが、会則に従うと、20名ほど推薦委員会が推薦し、理事会が20名程決定するとなっており、この選考の基準を決めるのが難しく、この際、選考方法をもう一度検討したほうがよい。
- ・ 理事会で承認が得られれば推薦委員会議論で、議事数が会員数に対して多いこと、HUPOの理事が会長になる必要があるのか、新理事の選出方法を会員による選出と理事の推薦等につき検討したい。
- ・ 選出規定案を常務理事会で作成し、理事会で検討・決定し、総会までに理事を選出し、総会で承認をえるようにという案はどうか。これに伴い会則を変更する必要がある。改正案は常務理事会で作成、理事会にて検討・承認を得るという案を承認していただきたい。

中村先生よりも、規定がある以上、規定をクリアして、運営する責任母体を確保すること、より多くの方が参加することが重要であり、新規分野の先生方に参画いただきたいと提案があった。

各理事より、以下の討論がされた。

- ・ JHUP0 と HUPO の関連について。JHUP0 は HUPO の下部組織みたいだ。
- ・ JHUP0 のあり方について（学会・機構）。Human にこだわる必要はないのでは。
- ・ 機構の会員への情報提供の事にも触れ、JHUP0 情報誌を作成してはどうかという案が出され、予算のかからないHP上でのアナウンスなどが提案された。
- ・ 会員管理につき、会費を無料とする案、大会参加者を1年間会員とする案、各年大会余剰金を本部にバックする案（各大会の魅力を増し、参加者・企業が参加したくなるようにする）が出された。

これらの議論につき、常任理事会で審議し、また、案を作る過程で、理事の先生方に動いていただくということが中村先生より提案された。

5. HUPO 世界大会の日本開催について

順番で行けば2013年がA0での開催予定である。国際質量分析学会が2012年に京都で開催するということが決定し、JHUP0に関連の深い、日本質量分析学会会長 大阪府立母子保健総合医療センター研究所 和田芳直先生からのご提案があり、国際質量分析学会とHUPOを合同開催はいかがか。開催期日を近くし両者にメリットがある。現在当件につきHUPOの事務局に打診中。2012に京都合同開催になれば、9/28から一週間の間に開催することになる。

HUPO世界大会2012誘致について前向きに動いてよいかにつき、ECメンバー、事務局長に検討をお願いしている。会長にもお願いし、ECメンバーで検討するということを検討していただくことと返答いただいた。

合同開催については、どのような期間で開催するか（合同、タンデム、一部オーバーラップ）等検討課題があり、今回の理事会ではペンディングということで、承認された。

和田先生には高尾先生より相談していただく。

報告事項

中村先生より報告があり、HUPO および AOHUPO HUPO ソウルで理事改選があった。AO から JHUPO 理事の先生方がノミネートされたが、今回から参加者投票になった。HUPO の理事会でも議論したが、結果、韓国、アメリカより 3 名が選出された。韓国、中国は学生参加者まで動員して票稼ぎをしていた。来年アムステルダムでも同様なことが起こると予想される。

谷口先生より以下の報告があった。

- HUPO はミュンヘンで大赤字を出し、1 万 5 千ドルを 3 年間で払う。
- 2008 年度 HUPO は財政的に非常に厳しくなると事務局長よりメールがあった。
- HUPO が万が一倒れても、JHUPO は続く。HUPO を毎年開催し、赤字を出して、その上高額な給料を事務員に出し、ナンセンス。3 年に 1 度したらという意見をされたことを報告した。
- AOHUPO 中国の HUPO サテライトで香港のプロテオミクスソサイエティで AOHUPO 理事改選について話し合いがされ、日本からは 2 名 AOHUPO の vice president をしていたが、平野先生を推薦し、承認された。新規各国理事は 2009 までで、再選された理事は 1 年。2008 年に AOHUPO を日本蛋白質科学会と合同開催され、JHUPO へ協賛がきたが、渡航費にあてるということになり、平野先生に案作成を依頼。

平野先生より以下報告があった。

- シンプソン先生から講演者の候補を出してほしいと理事に依頼があった。
- 40 歳未満の研究者で会員を優先して 1/31 までに書類もしくはメールにて連絡して頂きたい。
- 詳細は近日メールにてご連絡する。助成金は 5 名までに 50 万である。

上記につき理事より承認された。

第 6 回大会につき高尾先生より報告がなされた。

- プログラム委員は現理事全員に参加をお願いしたい。
- 創薬バイオマーカー探索に向けて、の趣旨に合うように各理事で 1 月末までに企画オーガナイズしたいということがあれば、メールでお知らせ頂きたい。ひとつのセッションで時間を 2 時間半とりたい。最大 8 つでそのうち 0.5 時間は次田メモリアルにする。
- 高尾先生でも理事以外の先生に声がけしており、各先生とご相談の上、シンポジウムを企画する予定。
- 特別講演は寒川先生とテンプスト先生（米国 NCI）に依頼。NCI のヘンリーロドリゲスも JHUPO とコンタクトをとりたいとのことで、各国の HUPO 下部組織との関係を構築したいということもメールで寄せられている。

上記高尾先生の報告につき理事より承認された。

以上で理事会が閉会された。